

新ケミカル商事は今年度から新中期ビジョンの2年目に入った。「耐える力、儲かる力、アピールする力」の3つの力の強化を主眼に事業活動を推進している。油嶋武晴社長は「前年度は米国などの経済回復、国内の復調などにより、増収増益を達成し、計画もクリアした。一方、今年度はコロナ禍、ウクライナ紛争、円安、原油高など見通しにくい状況となっているが、初心を忘れず、全社一丸となって目標を達成したい」と述べている。

同社は今年4月に組織

## 新ケミカル商事

# 全社挙げてSDGs推進

改定を実施した。化学品事業の強化で、化学品営業部を第一部と第二部に分け、日鉄ケミカル&マテリアルを担当する一部には君津営業部の化学品事業を移管した。

よびNC建材に取り込み全社挙げての拡販体制とした。また、福島地区の基盤強化で四倉運輸とマールシチ砕石販売を統合しNCT四倉とした。

肥料事業は硫安が堅調で土壌改良材エスミンなど自社製品も好調。パイ

ど自社製品も好調。パイパーパルプ飼料の生産がフイリピンで始まることから拡販を目指す。

り再生樹脂・再生機械販売事業を行っているNC T化学は原料高に苦戦も堅調。NCTフロンティアは東洋化成工業と日興ケミカルを吸収し、グループ内でのメーカーの位置づけを明確化した。

SDGs（持続可能な開発目標）は全社挙げて取り組んでいる命題である。各事業がムーンショットを掲げ、そこに向かって邁進している。まだまだ先は長いが一歩ずつ

建材事業はI L Cのポイドスラブ事業を本拠とした。

海外向け特殊樹脂販売が堅調も原油値上げの影響が懸念される。時流に乗

建材事業はI L Cのポイドスラブ事業を本拠とした。

海外向け特殊樹脂販売が堅調も原油値上げの影響が懸念される。時流に乗

進めていく。